

時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

高学年向け 2024年 秋号



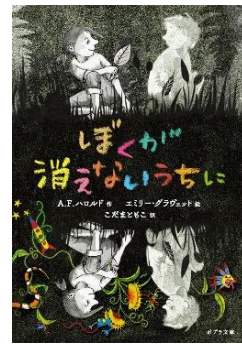
「しずかなところはどこにある？」
レータ・ニエメラ/文 島塚 絵里/絵・訳
(岩波書店)

耳が大きなきつねは、大きな音が苦手でした。森は大きな音でいっぱいなので、地面の下の深い穴の中に住んでいました。ある日のこと、きつねはしずけさをさがしに出かけます。しずけさは、すずらんのかおり、やさしいことばのなか、ひんやりしたまどガラス…びっくりするような場所にたくさんありました。思いやりの気持ちを持って、どんなことだろう？あたたかで、やさしい気持ちになる、フィンランドの絵本です。

家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。難しいルールは要りません。家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「ぼくが消えないうちに」

A. F. ハロルド/作 エミリー・グラヴェット/絵
こだま ともこ/訳 (ポプラ社)

もしも、わたしにしか見えない友だちがいたら、毎日もっと楽しかったでしょうか？ラジャーはアマダの親友。でも、ラジャーの姿はアマダにしか見えない。二人は毎日楽しく暮らしていたけれど、ある日、突然アマダは姿を消し…。ラジャーはアマダを探す旅に出ます。そこで出会うヘンテコな人々たち。ラジャーはふたたび大切な友だちに会えるのか？ちょっとだけ怖くて、でも、むねがギュッとするふしぎな物語。



「木かげの家の小人たち」

いぬい とみこ/作 吉井 忠/画 (福音館書店)

「小人」と聞くと、外国のお話を想像する人が多いのではないのでしょうか？この本は、日本に住んでいた小人一家のお話です。森山家の主人達雄は、小学生の頃に、イギリス人の先生から小人のアッシュ家の世話を任せました。それから、子どもたちが世話を引き継ぎ、今は一番下のゆりが担当しています。しかし、時は太平洋戦争の真っただ中。小人たちはゆりとともに信州に疎開することになりますが…。読みごたえのあるファンタジー作品です。



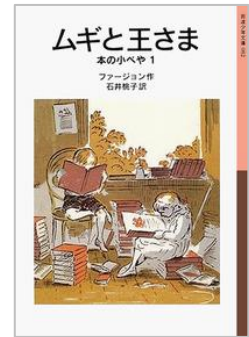
「すごいトイレのはなし

1万以上の便器をみがきつけて。」

佐藤 満春/著 伊藤 ハムスター/絵 萩原 まお/絵
(Gakken)

みんなが毎日使っているトイレ。この本は、トイレマニアの佐藤さんが、トイレにまつわるいろんな知識やトイレ掃除のやり方など教えてくださいますよ。

なかでも、日本全国のすごいトイレの写真にはびっくりです！スケスケなトイレや水族館のようなトイレ。あなたはどのトイレを使ってみたい？



「ムギと王さま 本の小べや 1」

エリナー・ファージョン/作 石井 桃子/訳
(岩波書店)

皆さん、おとぎ話は好きですか？この本には、王様や王女様、召使いや妖精、小人などなど、おとぎ話に登場する魅力的なキャラクターたちがたくさん描かれています。「レモン色の子犬」「小さな仕立て屋さん」「おくさまの部屋」をふくむ14作品が入っています。いつものおとぎ話とは、少し違ったお話を読みたい時に。



「はじまりは一冊の本！」

濱野 京子/作 森川 泉/絵
(あかね書房)

幼なじみはサッカーが好きで、とことん打ち込んでいるのに、何にも興味を持てなかった柊斗。そんなある日、一冊の本に出会った。それは、卒業生たちが作った「世界で一冊の本」。そこから柊斗は、本や印刷に興味を持つようになっていった。サッカー好きで強引な父さんからは、いやな顔をされたけれど…。柊斗は好きなことを探求していく。

発行：時津町立時津図書館